

## PFIで「安くなる」どころか、事業者言いなり??

# ミュージアム面積6割に減少、事業費が膨らむ

事業費の上限は、市の予算で決定しましたが、施設規模、事業内容・事業費は、一定の条件(要求水準)を満たせば、民間事業者が決めることになります。

事業者が建設する観光交流センターは、宇治市の計画では2320㎡ですが、2136㎡に縮小。とりわけ中心施設の「ミュージアム」は市の計画750㎡に対し、事業者の提案は433㎡と6割以下の規模に縮小されます。建設費は市の予算とほぼ同額の提案である一方、ミュージアムなど主要部分の建設面積が縮小されたのですから、建設費が大きく釣り上げられたこととなります。市は「PFI事業の方が安くなる」と言ってきましたが事実は逆です。

設計・監理は、予算4000万円に対し、事業者提案は7300万円と1.8倍以上に増額。また、維持管理・運営費は15.5年間で18.6億円の予算に対し、事業者提案は20.6億円と1割増しになっています。

事業内容や事業費を民間事業者が決める



## 宇治市 **全体** の観光客増にはならず 事業者が入館料値上げできる **利用料金制** へ

太閤堤跡の歴史公園によって、宇治市の観光客が増える目処はありません。事業者は11、5万人のミュージアム入館者数を見込んでいますが特段の根拠は示していません。

この施設建設によって、市の観光客が増えないのであれば、既存の飲食店や土産物店から観光客を奪うものになります。

事業者はこの入館者数をもとに、500円のミュージアム入館料を提案。また、入館料は「利用料金制」という事業者が決定できる仕組みも提案されています。

他の公共施設のように料金を条例で定めるものではなく議会の関与も無くなり、仮に入館者が減って採算があわなければ、値上げが可能な仕組みになります。

## 源氏物語ミュージアム(995㎡)に比べ 面積半分以下の歴史公園ミュージアム(433㎡) 事業者の提案

歴史公園ミュージアムは433㎡で500円。有料部分の面積が995㎡で500円の源氏物語ミュージアムと比べると面積が半分以下しかありません。(源氏Mは600円に来年値上げ)

展示物は、宇治市が提供している宇治名所絵図などで、展示方法は工夫されるでしょうが独自色は見当たりません。また、歴

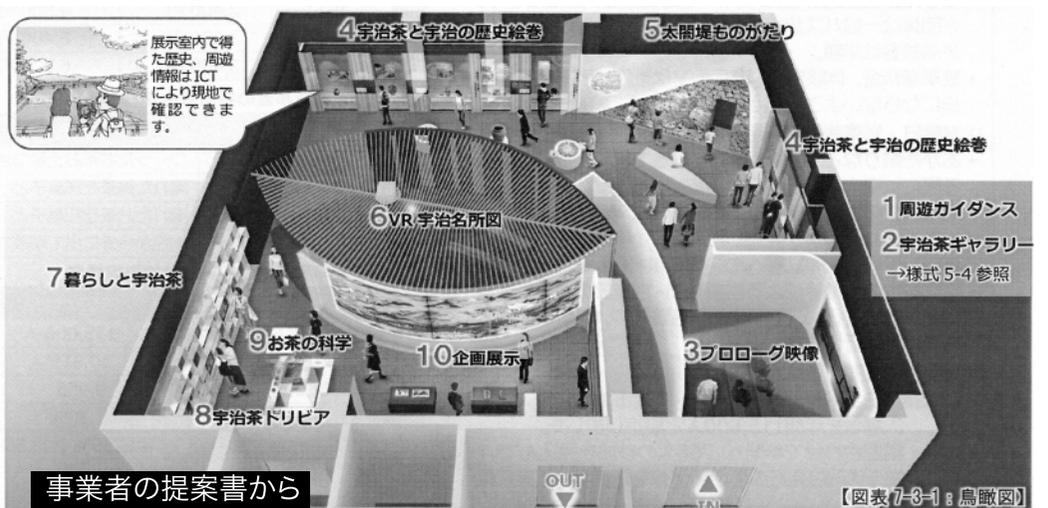
市の計画よりも、ミュージアムなどが大きく減少

### 事業者の提案内容

施設	H29/6/1市の計画概要	H30事業者提案	市計画概要よりも減少	
			床面積	減少率
ミュージアム(情報発信)	750	433.56	316.44	42.2
宇治茶体験室	100	196.05	-96.05	-96.1
レストラン喫茶	200	160.01	39.99	20.0
ミュージアムショップ	150	46.84	103.16	68.8
講座室	300	277.77	22.23	7.4
エントランスホール	370	317.82	52.18	14.1
展望デッキ(テラス)		101.52		
その他(事務室など)	450	704.42	-254.42	-56.5
合計	2320	2136.47	183.53	7.9
(テラスを含む合計)		2237.99		

※事業者提案はテラスを建築面積として記入(建築基準法ではテラスは建築面積に含まない)

PFI事業手法によって、ミュージアムの建設規模は6割以下になり結局、設計・建設費や維持管理・運営費が膨らんでしまいました。



史公園ミュージアムは、源氏物語ミュージアムのように学芸員がいる博物館でもありません。なお展示内容についての具体的資料は公表されていません。



雑草だらけの幼木茶園 これでは2年後茶摘み??

雑草で茶の木がかくれているので日も当たらず、生育がきわめて悪い